



丹波市産木材の有効利用法を募っている能口秀一さん 〓 丹波市水上町賀茂

間伐材で魅力的な商品を 若手製材業者がアイデア募る

丹波市

「森林管理続ける原動力に」

丹波市産の木材を有効活用しようと、同市の若手製材業者が間伐材や雑木を利用した新商品のアイデアを募っている。主催者は「里山の手入れで生じた木を魅力的な商品に変えて消費者に届け、森林管理を続ける原動力にしたい」としている。

同市水上町賀茂の木工業「ウッズ」〓能口秀一社長(46)など3社を中心に実行委員会を立ち上げ、「たんばウッドプロダクトデザインコンペ」

と題し、企画を進めてきた。

作品は、量産可能であれば大きさと形状は問わない。審査は、神戸芸術工科大の大田尚作教授らが担当し、デザイン大賞(30万円)1人、デザイン賞(5万円)2人を選ぶ。入選作3点は試作した上で、他の応募作のデザインとともに3月下旬、丹波市柏原町田路の丹波年輪の里に展示する。

また、選外作品も含めて地元企業などが商品化を検討。実現した場合、

3〜5%の著作権料を支払う。

希望者は作品の名称、デザイン、寸法、用途、想定する使用者などをA3判用紙1枚にまとめ、PDFファイル形式でメールに添付し、10日(必着)までに実行委(アドレス twooodpdc@wup.n.wv.s)へ。メールには住所、氏名、連絡先も記す。実行委事務局(能口さん) ☎0795・88・96305 (阿部江利)

などなどの
答え



ミハコノキコ
エビ田村本